ポスト2020に関する COP14・アジア太平洋会合の報告

IUCN-J事務局長　道家哲平
（日本自然保護協会）

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

本報告の元となるレポート

- COP14報告会　報告プレゼン掲載　http://bd20.jp/18-12-20-3/
- COP14現地レポート　http://bd20.jp/category/conference/cbd-cop14/
- ポスト2020合同ヒアリング資料（2月5日会員ML)
- アジア太平洋地域ポスト2020地域コンサル会合（2月4日会員ML)

現在、愛知ターゲットは、、、

- 国連持続可能な開発目標（SDGs）に入り、
- 140カ国の生物多様性国家戦略が愛知ターゲットを組み込み
- 愛知ターゲット達成のための行動は数多く生まれているが、劣化を止めるに至っていない今なお、世界のほぼ全地域で進行中
- 「人と自然の共生（2050）」ビジョンは、今なお重要で、達成可能なシナリオもある
- 劣化を止めるには、変革的変化（transformative change)が必要
- COP14の交渉では、**ポスト愛知の検討プロセス**を決定

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

ポスト2020の検討プロセス（COP14/34)

- 参加型を重視
- 特別作業部会で検討（カナダとウガンダから共同議長）
- プロセスの普及啓発のためのハイレベルパネル（設置予定）
- 多様な関係者（＊）を対象にしたり、参画したりする準備プロセスや、テーマや地域別ワークショップの開催等を通じて検討を進めることを呼びかけ
- 2020年の国連総会で首脳級会合を実施

（下線は、COP10ではなかったプロセス）

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

検討プロセスで大事にする諸原則(COP14/34)

重要原則:

- 「参加participatory」
- 「包摂inclusive」
- 「包括comprehensive」
- 「変革transformative」
- 「触発(catalytic)」
- 「知識ベースknowledge base」
- 「透明性transparent」
- 「反復性iterative(何度も意見を往復。合意と当事者意識)」
- 「ジェンダー配慮Gender Responsive」
- 「視認性Visible」
- 「柔軟性Flexibility」　　下線はCOPで新たに追加された原則

パリ協定のような仕組みの導入“検討”
（COP14/34)

- 締約国、その他の国に対して、単独または共同で、自発ベースで、生物多様性条約、愛知ターゲットそして、ポスト2020枠組みに貢献する、生物多様性コミットメント（Biodiversity Commitment）の開発を考慮することを求める決定。

- 先住民地域共同体、あらゆる団体、利害関係者に対して、COP15の前に、ポスト２０２０枠組みに貢献し、かつ、Sharm El-Sheikh to Beijing Action Agenda for Nature and Peopleへの貢献として、生物多様性コミットメントの開発を考慮するようを求める決定。

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

検討プロセス(別紙も参照）

- 2018.8　第1回意見表明
- 2018.11　COP14
- 2018.12　第2回意見表明
- 2019.1　ディスカッションペーパー・アジア太平洋地域コンサルテーション会合（RCM)
- 2019.2　第3回コメント
- 2019.3　RCM（EU、ラテンアメリカ、アフリカなど）
- 2019.6　RCMの取りまとめ　トロンハイム
- 2019.夏　OEWG 1st
- 2019.11　SBSTTA/8(j）
- 2020.第1四半期　OEWG 2nd
- 2020.5　SBSTTA/SBI
- 2020.6　IUCN-WCCマルセーユ
- 2020.夏　OEWG　3rd
- 2020.11　COP15

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

アジア太平洋地域ポスト2020ワークショップ

- 2019年1月28日から2月1日＠名古屋国際会議場
- アジア地域から120名（？）程度参加
- 政府のほか、国際機関、NGOなども（後から）参加可能に
- 初めての地域コンサル会合のため、皆慣れない雰囲気もあったが、NGOがファシリテートに協力するなどもあり、非常に良い議論ができた。

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

アジア太平洋地域ポスト2020ワークショップ

- プログラムの特徴―丁寧なプロセス・バックキャスティングで発想

：他己紹介→前提共有→過去の取組共有（第6次国別報告）→国際機関の視点→アジアのビジョン→ステークホルダーの視点→ポスト2020の要素→ラップアップ

- 進行：グループ議論中心。オブザーバーも公平に発言でき、時には、国から意見を求められることも。NGOの意見も反映（COPと異なり政府のサポート不要）。グループワークへの慣れに、国ごとに差があった印象

- 目標そのものより、実施のガバナンス、コミュニケーションと主流化が論点
- 4日間も時間かけられないとき、どう議論すればよいか？

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

出された意見　ポスト2020の構成

- 3 つのシナリオがありうる―**枠組みそのものを維持、わずかな修正、完全なストラクチャー**変更。
- アンビシャスな目標とプログラム、かつ、リアリスティックな目標のバランスを取ることが重要。
- **横断的な**プログラム・ターゲットの設定が必要。
- オペレーション・ファイナンシャルメカニズムが必要。
- ABS や関連する伝統的知識は各国の対応状況が不十分であるためターゲットに入れた方がよい。遺伝子組み換え（BS）は言及は必要であるが、ターゲットに入れなくても良い
- ECO-DRR などの要素として欠けているテーマがある。基本は残しつつ、ミッシングポイントやテーマを入れる必要がある。
- データの不足

- As Appropriate のような、やらなくてよい・エクスキューズの言葉はいらない。
- 政治家や実践者向けの言葉はまた異なる。魅力的な言葉が必要。
- ターゲットは、シンプルで短いほうが良い。
- ガイド文書が必要。⇒ガイドラインはOne Off ではなく、アップデートが重要だ。

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

ポスト2020　主流化と連携

- 重要性については全員一致。主流化をどうポスト2020 に入れるかについては、いろんなオプション選択肢があることが提案された：ターゲットに入れる、ツールやメカニズムに入れる、他のセクターターゲットにいれる、横断型目標や前文などで書き込む、というアイディア
- 主流化目標を、SMART 目標にできるか、指標は何なのか？
- 「すべての企業・産業群に生物多様性の視点を入れる」というワーディングがありうるか？
- EIA やSEA やSpatial Planning、Strong legislation などの手法の重要性
- ポスト2020 のすべての目標で主流化の行動が生まれるように、明確にしたりする必要がある。
- 主流化がCBD ファミリー以外に知られているだろうか、という指摘。

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

ポスト2020　主流化と連携

- SDGsへの注目を活用して、国内レベルでも実施が進む方法ができないか。
- ポスト2020 を、SDGsの2020 で失効（？）するものをアップデートするつもりで作る。
- SDGsのゴールだけではなく、2030 アジェンダにも言及することが重要（Leave No One Behind などの原則もカバーするべき）
- 他条約とレポーティングの共有。条約との目標の連携

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

ポスト2020　資源動員　生物多様性コミットメント

＜資源動員＞

- 量的目標、明確な指標が必要。SMART であるべき。GEF やガバメントファンディングなどの伝統的なファンディングだけでなく、他のソースを考える必要がある。
- マーケットベースや、生物多様性オフセットなどの活用。
- 生態系サービスの価値評価が資源動員につながることがある
- **ABT3の活用**。ネガティブインセンティブをポジティブインセンティブに変えること
- ファイナンスだけでなく、人的なリソースや、技術的なリソースもカバーする必要
- 気候変動やSDGsと近い、ECO-DRR などのテーマなどを活用して、開発系資金をこちらに誘導する必要
- 戦略の開発に支援を行う。
- GEF だけでは不十分で、気候変動の事例を学ぶべき

＜生物多様性コミットメント＞

- 目標やガイダンスが必要ではないか。どのようなコミットメントが期待されるかという点を明らかにするべき。
- NDC for Nature。補助金や行動変容などもカバーした方が良い。

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

ポスト2020　コミュニケーションと能力養成

- グローバル、リージョナル、ナショナルレベルで考える必要。コミュニケーションパスウェイを意識したり、メッセージをシンプルにする必要がある。
- ローカルコミュニティーを含む、ターゲットオーディエンスを設定する必要がある。
- ポスト2020 のコミュにケーションも重要だが、コミュニケーションに関するターゲット1の要素をポスト2020 の目標としていれつつ、より、SMART にする必要がある。
- ターゲットオーディエンスの設定。
- コミュニケーションにもっと投資が必要。

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

ポスト2020　コミュニケーションと能力養成

- 非常に重要な課題
- 多様なレベルでキャパシティビルディングが必要
- 指標も必要だが、どのようなものが考えられるか不明。
- 能力養成事業の効果も評価する必要
- 能力開発の蓄積評価（ストックテークのアセスメント）が重要ではないか。

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

多様な視点の組み込み

- 世界レベルのマンデートが進めるためのツールになる
- NBSAP や生物多様性の委員会のような組織を作って、統合を進める。
- プロセスの透明性の重要性。
- inter-sectroal or cross-sectoralの協働をハイライト。各国で有用なツールがある。
- 企業に最低限望むことなどを明確化する必要
- 投資家の巻き込みが重要
- プロセスへの参加と当事者意識の醸成が必要、
- フレームワークの文章だから、要素をキャプチャしつつ、どこまで細かく詳細を決めるかというバランスの問題がある。

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

NBSAP とレビューのありかた

- NBSAP は重要なツールであり、ポスト2020 でも重要なツールとなるべき。
- NBSAP の有効性（課題や障害など）
  - 政治的な理解や意思が不十分（障害）
  - 国レベルでの資源が足りない（障害）
  - ローカルレベルでの生物多様性戦略が有効ではないか
  - コーディネーションメカニズムが不足していることも課題
  - ターゲットセッティングの仕方が分からないという指摘。
- 有効な手法
  - コーディネーションメカニズムが必要 ナショナルコミッティーなど
  - 国内実施のガイダンスなどがあってもよい
  - レビューメカニズムの改良
  - ラチェットメカニズム（生物多様性コミットメント）
  - コミュニティーベースモニタリングメカニズム
- ソフトローと他の条約のような厳格な仕組みについての意見。

ポスト2020は、どんな変革をもたらすべきか、もたらすことができるのか？

- 生物多様性の劣化を止め、カーブを上昇させるために変革が必要

  VS

- 一方で、愛知ターゲットの枠組みを残すべきという意見

- 同じ枠組みでは、失敗した愛知ターゲットを、再び繰り返すだけ？

- What make a difference?

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

国連生物多様性の10年日本委員会

未来へつなぐ
「国連生物多様性の10 年」せいかリレー

- 2010年からつないできた10年間（成果）と
- 2030年につなげたい希望と課題（聖火）を、
- 日本全国で考えるイベントの開催呼びかけ
- スタートは、愛知県・名古屋（2020/1/11-12）
- 全国を巡り、COP15＠中国に持って行き、COP15の成果（聖火）を再び日本に持ち帰る

2019.02.08発表資料　無断転載禁止

意見交換

- 現場から愛知目標はどう見えた
  改善すべきこと・失敗から学べること

- 2030年に生物多様性の劣化から回復まで進めるために何が必要か（バックキャスト）

- ポスト2020に何を期待するか
（時間があれば、IUCN-Jにできること）

2019.02.08発表資料　無断転載禁止